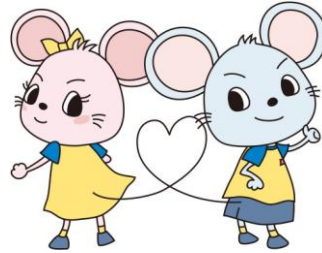


AG+

多様な生徒がともに力を伸ばす補習校を

補習校ネット情報交換会 #56

補習校運営の知恵



2025.02.10

お願い：できるだけカメラONでご参加ください

本日の予定

1. 全体で情報交換

2. グループ懇談（参加人数に応じて行います）

- ① 学校経営面〔学校の収入面（政府からの援助、授業料、寄付金等）、支出面（借用校との関係、事務所の経費、講師の手当等）〕の効果的な運営等。
- ② 学校運営面〔保護者当番による運営の限界と工夫、駐在員減少による運営の難しさ、効率的な学校運営組織の在り方等〕
- ③ 人材の確保〔教員の確保、教員研修の在り方（学習指導、生活指導、個別対応）、ボランティア（学生・保護者）の活用等〕

◆ これからの情報交換会

リクエストは、三井 tommitsu1122@gmail.com または、佐々 ag5nsassa@gmail.com へ。

◆ 情報交換会の録画について

スタッフの反省材料とするため、ミーティングの録画をさせていただいておりますが、それ以外の目的でお見せすることはいたしません。ご理解をお願いいたします。

◆ 出席者と連絡を取りたいとき

ご希望をお知らせください。相手の方の許可がいただければ、メールアドレスをお知らせします。

◆ こちらもごらんください

過去のAG5 補習授業校情報交換会資料 <https://www.ag-5.jp/post>

AG5 ウェブサイト <https://www.ag-5.jp>

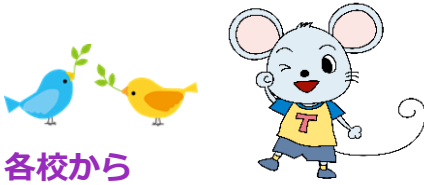
補習校教員交流 Facebook <https://www.facebook.com/groups/1664125650300837/>

海外子女教育振興財団（JOES） <https://www.joes.or.jp>

ここが聞きたい



- ・児童生徒、保護者記名アンケートから、学校をよりよくできる部分や求められていることが可視化、言語化され、改善につなげられる。経営との関係で、運営委員の意見を取り入れ、教員とは、会議や個々に協議し、保護者には、学校便りや個々に話し合うことで学校の方針の共通理解を得ていくことが大事だと感じている。ボランティア協力者が減っているなか、保護者から、学校に協力する申し出が届き実施した保護者活動を学校便りで発信していくことで、肯定的な連鎖が生まれているように思う。
- ・教務との連携状況や情報共有の方法をお聞きしたいです。学校や組織の体制、規模によって異なるかもしれませんが、よろしくお願いします。
- ・運営に携わってくださる保護者は本当に大変そうです。他の補習校はどのように運営なさっているのか知りたいです。
- ・授業中の校舎内業務の多さだけでも驚いたのに、学校運営のノウハウも知らずに平日の業務も引き継ぐので、毎年入れ替わる運営体制に限界を感じます。日本企業の駐在者が母体となる学校規約なので、駐在員が少なくなり役員のなり手がなくなったら、存続は無理なのでしょう。
- ・教員の授業力向上のための研修は、どなたが主導されていますか。また体系的に実施されているかを知りたいです。（頻度や方法など）
- ・補習校での適切な生活指導法を教えてください。正しい保護者との連携とは。
- ・どのような媒体で求人をしているか？採用の条件は何か？
- ・個別支援に関して他の学校がどのように取り組んでいるか知りたい
- ・複式授業を取り入れている学校に、運営上の課題や対策などをお聞きしたいです
- ・現在役員 5 名（会長・副会長・書記・会計・教務）を保護者だけで運営しています。2 年任期で進めていっていますが、なかなかの重労働で仕事をしている人も多く、成り手が不足しがちです。完全ボランティアになっていることもあり、お金ではないとはいえ、負担感や不平等感が募ることも多いのが現状です。今回は各校がどのような工夫で運営を楽しく円滑に進めようとしているのかのご意見伺えたら嬉しいです。
- ・永住組が多い、小規模校ですが、同じような学校がどのように講師を確保し、授業料や講師への給与を設定しているかを知りたいです。
- ・学校として登録することのメリット、デメリット、学校を立ち上げるための手順、継承語(日本語) 学校として日本やアメリカの行政支援について



各校から

♣チューリッヒ日本人学校補習校 *****

全日校と共同で発行している文集の原稿提出が済みました。3月卒業式と、4月始業日漢字総復習試験に向けて準備が進んでいるところです。(長森 千枝)

♣ケルン補習校 *****

運営という立場の中で、教務主任との会議や話し合いを通じて、立場が異なるからこそ得られる/異なる視点での指摘や改善点に気づかされます。講師として子供や保護者への働きかけには、さまざまな難しい場面があり、学校として何を目的に日本語を学習しているのかという指針や姿勢が必要であるところのご指摘を受けたことがあります。運営自体も保護者であります。通常の保護者よりも講師に近い立場で問題を理解・把握しており、カジュアルな形で保護者に啓蒙できるよう、カフェタイムを実施しています。学年にとらわれず、さまざまな保護者の意見や相談に触れながら、「補習校とは何か」という難しいテーマについて保護者と話し合う機会を設けました。名前の通り、雑談的に気軽に話し合おうというのが目的であったため、多様な意見を聞くことができ、保護者にとっても学校について考える時間をスムーズに持つことができたと考えています。一例として、あげさせていただきます。(イングバー りかこ)

♣カンザスシティ補習校 *****

小・中学部 38 名(国語科・継承語クラスを含む)、幼稚部 18 名、職員 13 名。講師の確保に悩む。(古宮 弘子)

♣ベルリン中央学園補習授業校 *****

当校は小学部は 2 クラスずつあり、また中学部は 1 クラスですが、在籍者が 20 名を超えるなど(可能ならばクラスを分けたい)人材の確保に非常に苦勞をしています。(有馬 昌美)

♣アトランタ補習校 *****

個別支援について課題が多い。教員の採用が困難。(二村 愛)

♣ニューポートニュース補習校 *****

近年は近隣企業の駐在員数が減少傾向で、資金面でも運営の人的リソースの面でも苦勞している状況です。(福原 誠)

♣カンザスシティ補習授業校 *****

収支に関して言えば、補習校の収入源は、入学金、授業料、運営費、寄付金、バザーと日本祭での売り上げ等で、支出は、講師への給与、家賃、備品等です。(浜田 佐知)

♣インディアナポリス近郊、Ball State University *****

JASI Japanese Learning Support Group は、インディアナ日米協会の下で継承日本語を学んでいる子供たち(小中学生)の日本語学習の動機づけになればと、日本文化イベントを通して子供達が

楽しく日本文化と日本語に触れる機会を作っています。4年前に従来の補習校の授業についていけるようにと願う親たちが土曜日の放課後に一緒に復習、予習をしながら宿題をサポートすることから始まりました。現在は、4年前の生徒や親は卒業して日本文化イベントを毎月開催しています。現在、イベントに参加する子どもたちは補習校に通う生徒、補習校は通わず自宅で家庭教師や親と学習する生徒、ほとんど家庭でも話さず日本語がわからない生徒、とさまざまな日本語のレベルです。活動は親のボランティアが中心ですが、現在は近郊の大学の日本語プログラムや伝統的な日本語補習校に通う高校生のボランティアに協力を得ています。日米協会の非営利団体としての恩恵は受けていますが、正式に学校としての登録ができていないことと、世代交代でその時に中心になる親の状況で活動内容が変わってしまうこと、またインディアナ州に根付くプログラムとして運営を続けていくために苦勞しています。（イレレジ 羽太礼子）